

LINE WORKS

PRESS RELEASE

【建設現場の業務実態調査】現場で扱う資料の管理・共有は個人の PC や USB が 4 割、クラウド利用はわずか 2 割にとどまる。属人化した管理体制で、過去資料の検索性や外出先からの閲覧に課題

ビジネス現場のコミュニケーションツール「LINE WORKS」や各種 AI 製品を提供する LINE WORKS 株式会社（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：島岡 岳史）は、建設現場で働く施工管理、現場作業員、職人の方、計 1,071 名を対象に「建設現場の業務課題と実態に関する調査」を実施しました。

【調査背景・サマリー】

建設現場の実態調査から、企業としては、「人材不足」や「人材育成の遅れ」を優先的に対応すべき課題として捉えていることに加え、工程や作業のスケジュール調整、現場の立ち会い、協力会社との連絡、資料の管理・共有、議事録作成などの業務に時間を要している実態が明らかになりました。こうした業務負担の背景には、属人化された業務やアナログな手段による運用が残っていることが一因と考えられます。

資料・ファイルの管理・共有については、いまだ 4 割以上が個人の PC や USB メモリで行っているという回答があり、「過去の資料が検索しづらい」「外出先から確認できない」といった運用に関する課題の声が上がっています。

人材不足が深刻化するなか、現場業務のアナログな業務負担を減らし、一人一人の生産性を高める取り組みが急務となっています。

【調査概要】

・調査時期 : 2025 年 5 月 8 日～2025 年 5 月 12 日

・調査方法 : インターネット調査

・サンプル数 : 1,071 人

・調査対象 : 以下、①～③の条件をすべて満たす方

1 18-69 歳 男女

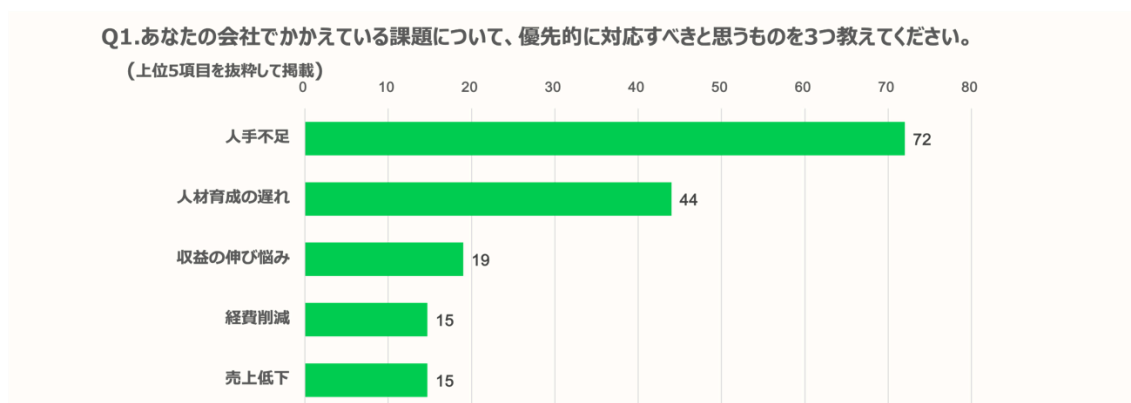
2 建設業または不動産の企業に勤めている方、もしくは該当業界で事業を行っている方

3 施工管理または現場作業員／職人の職種の方

※従業員人数が「1 人」「わからない」を除く

1.建設業界において企業がかかえている課題

企業でかかえている課題は、「人材不足」が 7 割以上（72%）と最も多く、「人材育成の遅れ」44%と続いた。



2.現場業務における課題

現場で手間がかかっている・負担に感じている業務については、「工程や作業スケジュールの調整に時間がかかる」最多の 42%、「現場立ち合いに時間をとられ、事務作業などが後回しになっている」33%、「協力会社や外注業者との連絡調整や資料の共有に時間がかかる」32%がトップ 3 という結果となった。

Q2.あなたが、現在の現場業務の中で、手間がかかっている・負担に感じている業務があればすべてお選びください。
(上位7項目を抜粋して掲載)



3. 業務や現場で扱う資料やファイルの管理・共有方法の実態

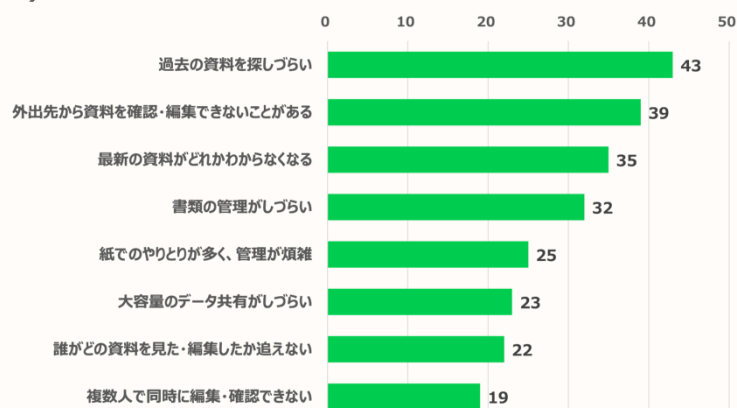
課題のトップ3にあがった資料の共有について着目してみると、業務や現場で扱う資料やファイルの管理・共有方法については、「自分のPCやUSBメモリで管理・共有している」が44%で最も高く、聴取した5項目の中では、「クラウドで管理・共有している」はわずか2割(22%)にとどまり、最も低かった。

Q3. 業務や現場で扱う資料やファイルはどのように管理・共有していますか。

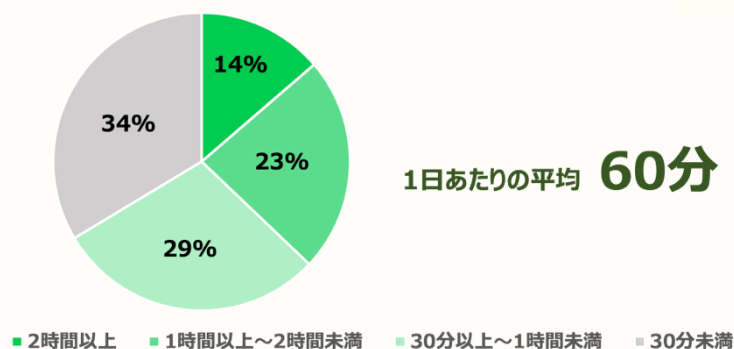


ファイルや資料の取り扱いにおいて負担や課題に感じていることについては、「過去の資料を探しづらい」43%、「外出先から資料を確認・編集できないことがある」39%が上位にあがり、社内外の資料共有やファイルの確認・管理に1日あたり平均60分の時間を使っている。

Q4. ファイルや資料の取り扱いについて、負担や課題に感じていることはありますか
(上位8項目を抜粋して掲載)



Q5. 社内外での資料共有やファイルの確認・管理に、
現在あなたは1日あたり平均どれくらいの時間を使っていますか。N=687



今回の調査について、吉成建設株式会社 大前 志鶴様よりコメントをいただいております。

吉成建設株式会社 総務部次長 大前 志鶴 様

これまで現場ごとに資料や書類の管理が属人化しており、資料の共有や確認に手間がかかっていました。現場からも改善要望があり、LINE WORKS のストレージ機能「Drive」を導入し、チーム全体での一元管理の実現に向けて着手しました。普段使っている LINE WORKS にオプションとして追加するだけで使い始められる点のほか、複数のツールと比較して容量やコストの面で導入しやすかったのが大きな決め手です。また、ローカル PC との自動同期ができ、普段のエクスプローラーと同じような操作で使えるため、感覚的にも非常に分かりやすく、現場のメンバーも無理なく使える点も大きな魅力です。また、会議や打ち合わせの議事録作成にかかる負担を削減するために、LINE WORKS とも親和性の高い AI 議事録作成ツール「LINE

WORKS AiNote」の導入を決めました。資料管理や議事録作成にとどまらず、今後も現場のさまざまな業務の効率化を進めていきたいと考えています。

LINE WORKS 株式会社 Industry Development Sales 本部 建設業界担当 谷 ひかる

人手不足が深刻化する中、限られた人材でいかに効率的に現場を運営していくかが、今後の大きな課題です。その解決のカギとなるのが、DX ツールや AI の活用です。当社では、コミュニケーションツール「LINE WORKS」をはじめ、AI 議事録作成アプリやクラウドカメラなど、現場業務を効率化するさまざまなソリューションを通じて、建設現場の生産性向上を支援してまいります。

また、今回の調査では、資料やファイルの管理・共有に加え、本プレスリリースではご紹介しきれなかった、議事録の作成やトランシーバーを活用した情報伝達、監視カメラを活用した現場管理など、建設現場における業務の実態を幅広く明らかにしています。（※本調査レポートはセミナーにお申込みいただいた方へ送付しております。詳細はこちら https://lp.line-works.com/kensetsu_seminar/）

オンラインセミナー開催：AI 時代の現場管理～“人手不足”に負けない現場のつくり方～

AI を活用した次世代の現場運営をテーマに、LINE WORKS ファミリー製品を活用した“人手不足に負けない現場”のつくり方をご紹介しますセミナーを開催します。お申込みいただいた方へは、申込特典として本調査内容をまとめた「建設現場における業務の実態調査レポート」をお送りいたします。

<詳細・申込はこちら> https://lp.line-works.com/kensetsu_seminar/

開催日時：7月24日(木) 13:00～13:45

開催形式：Zoom

申込特典：「建設現場における業務の実態調査レポート」

建設業界の方向け LINE WORKS ファミリー製品のご紹介

建設現場の課題を解決できる LINE WORKS ファミリー製品を紹介しております。また、コミュニケーションツールの「LINE WORKS」、トランシーバーアプリの「LINE WORKS ラジャー」、AI 議事録アプリの「LINE WORKS AiNote」をお得に使えるバリューセットをご提供しています（最大 20%OFF）。

LINE WORKS ファミリー製品紹介サイトの詳細はこちら

<https://lp.line-works.com/usage-construction/>

バリューセットの詳細はこちら

<https://lp.line-works.com/value-set-construction/>

LINE WORKS 株式会社について

ビジネスコミュニケーションツール「LINE WORKS」、AI 製品、LINE WORKS プラットフォームを管理基盤とした LINE WORKS ファミリー製品を提供しています。

多種多様な業種やビジネスシーンを問わず現場の課題に寄り添えるサービス提供に取り組むと共に、最先端の AI 技術研究を通じ、AI 技術のさらなる社会実装を目指しています。

会社概要

社名：LINE WORKS 株式会社

本社：東京都渋谷区桜丘町 1 番 1 号 渋谷サクラステージ SHIBUYA タワー23 階

設立：2015 年 6 月

代表者：島岡 岳史

資本金：55 億 2,000 万円

URL：<https://line-works.com/>

※記載の会社名、製品名は、それぞれの会社の商標または登録商標です。

※本プレスリリース記載の情報は発表日現在の情報です。予告なしに変更されることがありますので、予めご了承ください。